



学習のポイント

- ◆ 文法とは、「言葉の組み立て、使い方の決まり」のことである。
 - ◆ 言葉の単位とは、「意味のまとまりの単位」であり、「言葉の内容のまとまりの一つ一つのこと」である。
- 大きい順から、「文章・談話」「段落」「文」「文節」「単語」の五種類に分けられる。

- 1 文章・談話**
- ・書き手・話し手の意図によって統一され、全体として一つのまとまった内容をもち言葉の集まり。言葉の最も大きい単位。
- 2 段落**
- ・文章・談話の中の、事柄ごとの内容のまとまり。
- ① 形式段落：行を改め、一字下げて書いたまとまり。
- ② 意味段落：形式段落を内容的なつながりからまとめたもの。
- ※文法でいう「段落」は、普通「形式段落」を指す。

1 次のように言葉の単位を大きい順に並べたとき、ACにあてはまる単位の呼び名を、それぞれ漢字で書きなさい。

文章・談話 ↓ A ↓ 文 ↓ B ↓ C

A B C

2 次の文章は五つの文が連なったものです。各文の終わりの三字を順に書きなさい。

祖母は、今年七十五歳になるしかし、身体はじょうぶで、めったにかぜもひかない陽気で話し好きで、みんなを明るい気持ちにさせてくれる出掛けることも大好きだ近所の友達をさそって今日も面白い物に出かけていった

3 **例**にならって各文を文節ごとに区切り、に文節の数を書きなさい。

例 広い／川が／ゆったりと／流れる。

- (1) たくさんのコスモスが一齐にゆれる。 4
- (2) 失敗にくじけず何度も実験を繰り返した。
- (3) おじとキャンプに行き小川でつりをした。
- (4) 借りようと思った本はあいにく貸出中だった。
- (5) 明日は公園のゴミ拾いに参加するので五時に起きる。

3 文

・まとまった内容を表して言い終えるひと続きの言葉で、書くときは終わりに「。」(句点)を付ける。(話すときは、そこで間を取る。)

4 文節

・意味をこわさず、発音上不自然にならない程度に区切った、文の中のひと区切り。文を組み立てる単位。

・「ね」「よ」「さ」などを付けて区切ることができる。

例 青い(ね) 空に(ね) 白い(ね) 雲が(ね) うかんで(ね) いる(ね)。(六文節)

5 単語

・意味を持った言葉の最小の単位。それ以上分けると言葉として成り立たない。

例 青い 空に 白い 雲が うかんで いる (九単語)

・二つ以上の単語が結びつき、別の意味をもつようになったものを「複合語」という。複合語は全体で一つの単語である。

例 山登り ・ 飼育係 ・ 理解する など

4 **例**にならって各文を単語ごとに区切り、に単語の数を書きなさい。

例 あの／物語／は／忘れ／られ／ない。

- (1) おいしいおかしは人の心をなごませる。 6
- (2) 空に大きなにじの橋がかかった。

(3) 父は深刻な表情で部屋に入ってきた。

(4) 図書館は駅の北側にあります。

(5) 台風の進路に引き続き警戒を続ける。

5 **例**にならって各文の単語を、A物事を表すもの、B様子や動作を表すもの、C別の単語の下について文節を作るものに、分けて書きなさい。

例 白い犬がいる。

A 犬 B 白い・いる C が

(1) 東から風がふく。

A B C

(2) 兄は姉より優しい。

A B C

(3) 今日はおだやかな天気です。

A B C

6 次の文から、複合語(二つの言葉が結びついて一つの単語になったもの)を二つずつ書きなさい。

(1) 問題をすべて解き終え、赤鉛筆で丸をつけた。

(2) 工場で流れ作業の様子を見学してきた。